

# 二重唱

泉田秋硯

にじゅうしゅう

# 唱

いずたしゅうけん

心に残る現代の俳句作家

この一集は如何にも秋硯流をさらけ出す、我儘な句ばかりであります。他人の類想や自己模倣に陥ることのないよう、また単調な句の羅列で読者が読み飽きることのないように、句を選んだつもりであります。

心に残る現代の俳句作家



凍裂やどの樹討死せしならむ

雪原にヒツチコツクの群れ鴉

玄冬の白に馴れ過ぎるしこころ

鮒はたはたの  
大漁雪を被て帰る

黙秘せる大凍滝に怖ぢ気づく

真先に雪より現れし鉄亜鈴

お  
お  
と  
呼  
ぶ  
禰  
宜  
の  
テ  
ノ  
ー  
ル  
山  
開

夏  
帽  
の  
屯  
へ  
点  
呼  
声  
を  
張  
る

絢欄と泳者の肩の夜光虫

沈黙の原子炉の沖烏賊火燦

麴<sup>はったい</sup>にすはといふとき声の出ず

高声の今日は弾かて避暑館

孤  
独  
な  
る  
父  
の  
日  
競  
馬  
場  
に  
て  
も

黒  
揚  
羽  
海  
を  
怖  
れ  
て  
引  
返  
す

蚩狩いくさの闇を子に語り

星べて白夜休暇をむさぼれる

紫陽花に絵筆を執れば旅ごころ

眠るためカサブランカの香が欲しい

海虹老マドロスの無言にて

ポルトガル

向日葵の万に一つは好きと言へ

邪魔なのは下手な噺家蓮見舟

コーラスの一人涼しきアーシャドー

壺に活け向日葵十花  
駒<sup>じゅん</sup>致<sup>ち</sup>せり

元日の暁をたしかめ筆を擱<sup>お</sup>く

初鏡なほ生きるぞピ叫ばしむ

雪女三途の川へ誘ひけり

癌手術完了

生  
還  
の  
歡  
喜  
沸  
々  
冬  
日  
燦

退  
院  
の  
夜  
や  
耳  
馴  
れ  
し  
虎  
落  
笛

風花を掌に受け遠き日を憶ふ

医師と死を語る一献春の宵

飛行船のつそり現れて山笑ふ

万愚節日がな錬金術講義

ひたぶるに生きて傘寿の花に逢ふ

棉の実を吹いてみたくて唇を寄す

殉教の島に隠し田稻穂垂る

芒みな伐り払はれて地鎮祭

火の酒や人生語る夜の長く

曼珠沙華土管の果の異次元に

雁  
渡  
る  
海  
に  
白  
波  
立  
つ  
日  
な  
り

名  
月  
に  
吾  
が  
か  
し  
は  
手  
の  
届  
け  
か  
し

栗拾ふ熊そつくりの四つん這ひ

流水の沖へ一直線の航

吾が息を初蝶潔しとせず

山笑ひ山彦もまた生き返る

負  
鶏  
は  
今  
夜  
の  
肴  
文  
句  
な  
し

手  
庇<sup>びさし</sup>  
の  
い  
よ  
い  
よ  
高  
し  
鷹  
柱

隼の降下一燦餌をさらふ

車座の哄笑倶楽部すすき原

菊を焚く栄華のときは語らずに

独り唄聞かせて行きし枯野人

茶  
畑  
の  
美  
貌  
そ  
の  
ま  
ま  
山  
眠  
る

俗  
界  
を  
び  
し  
り  
と  
隔  
離  
白  
障  
子

いずたしゆうけん  
泉田秋硯著

二〇〇八年四月二十日第一刷発行

発行者 大山基利

発行所 株式会社文學の森

〒一六九-〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二丁目二田島ビル八階

電話 〇三五二九二一九一八八

FAX 〇三五二九二一九一九九

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

定価は函に表示してあります

落丁・乱丁はお取り替えいたします

ISBN978-4-86173-700-8 C0092

©2008 Shuken Izuta, Printed in Japan

句集  
に  
二重唱  
じゆうしやう